石川県剣連だより
剣風春秋
第38号
—発行—
一般財団法人
石川県剣道連盟
〒920-0811
金沢市小坂町西57-3 KSハイツ205号室
TEL 076-253-0310 FAX 076-253-0341
E-mail:ishikawa-kendo@iaa.itkeeper.ne.jp
URL www//ishikawa-kendo.com

本連盟の会計状況

会計担当理事　米林　憲英

一　はじめに

平成二十五年四月に、会計担当理事を引き継ぎ、三年余りが経過しました。この間の経緯、課題等について述べさせていただきます。

最大の懸案は、平成二十五年十一月からの本連盟の「任意団体」から「一般財団法人」への移行に伴う会計システムの変更でありました。

公益法人関係三法が平成二十年十二月に施行され、平成二十四年四月に、設立六十周年を迎えた「財団法人　全日本剣道連盟」が、将来の公益法人化を目指して、「一般財団法人　全日本剣道連盟」に移行し、評議員会中心の組織から、評議員会・理事会・監事の役割と責任を明確にした組織となりました。

全剣連の意向もあり、現在、四十七都道府県剣道連盟のうち二十四団体が一般財団法人や公益社団法人などの法人に移行し、残り二十三の任意団体につきましても、移行の検討がなされております。

また、石川県体育協会加盟の六十競技団体のうち、一般財団等の法人に移行した団体は、剣道、陸上競技、サッカー、相撲、バスケットの五競技のみでありますが、今後増えていくものと思われます。

二　法人化のメリット

法人化のメリットは、法人名による契約や登記をすることによる「社会的信頼」の獲得にあります。現に、移行に伴う銀行口座変更に際し、既存口座の廃止には、随分手間取りましたが、設定には、登記簿の提出によりスムーズに行うことができました。また、県体協からの補助金等が受けやすくなることもあります。

デメリットは、活動内容や組織運営が定款により制約されることです。経理は、法人の会計基準に基づいて行わなければならず、事業報告書や収支計算書などの情報公開も義務付けられます。更に、税法上の負担がかかり、謝礼金に対する源泉所得税の徴収・納付、法人住民税の申告・納付、消費税の申告・納付等が必須となりました。

三　会計事務の改善

法人化に伴う会計基準の適用、事業の体系化などにつきましては、米田満公認会計士と相談しながら進めました。

事業等のコード化に関しては、平成二十四年六月に法人化した先進の福井県剣道連盟のコードや会計基準コードを参考に策定しました。

また、平成二十五年十月から事務職員を雇用し、更に「弥生会計システム」を導入し、機械化を進めてまいりました。未だ、伝票記入などについては、手作業部分もあり、順次機械化すべきと思っております。

「会計規程」につきましては、米田公認会計士の意見を取り入れ、公益法人の会計基準を準用し作成しました。

また、「強化事業費」につきましては、別会計で執行しておりましたが、本会計に一本化しました。

四　会費の導入による財源確保

本連盟の会計は、審査・登録料、県体育協会等からの補助金が大宗を占めておりますが、法人化に伴う賃金、交通費、税、登記料などの増加経費に対処するため、また、会員意識の向上を図り、本連盟主催の大会への参加、昇段審査受験資格確保のために、平成二十六年四月から「会費」の導入を図りました。

団体会費は、一律五千円とし、従来の十三加盟団体に対する分担金三十万円を廃止しました。個人会費は、全国や県内の状況を調査し、五段以下千円、六段以上二千円とし、学生は徴収しないこととしました。

平成二十七年度の会費納入状況は、五段以下が六百七名、六段以上が二百四十一名の合計八百四十八名となっています。

会費の導入に併せて、平成二十六年四月から、全剣連が、消費税の増額による審査・登録料の改定を行ったことにより、本連盟の審査・登録料を改定し、ジュニア強化、教職員全国大会派遣等に対処することとしました。

五　今後の課題

会計担当理事は、県主催の大会、講習会、審査会などに当日の出席が

— 特集記事 —

2頁　「居合道範士を拝受して」　居合道範士八段　中村正人
4・5頁　「剣客往来インタビュー」　かみいち総合病院　高木賢治氏

義務付けられます。前日までの準備、大会後の記帳などを含めると、多くの時間を費やすことになります。補助する事務職員の勤務時間との調整などが必要となります。

その他、平成二十八年度以降の消費税の納付に関する簡易課税方式の見直し、過去からの積立金であります「正味財産」の使用目的の明確化、更に、財産の運用につきましても、国債購入等によるより効率的な運用を図る必要があります。

更に、剣道のしおり、剣道手帳、バッチ、ネクタイの販売による剣道の普及推進を図る必要があります。

居合道範士を拝受して

居合道範士八段　中村　正人

去る、五月三日に京都市武道センターで行われました、居合道称号範士審査会におきまして小笠原 正幸先生（山形県）と私の二名が居合道範士の称号を授与されました。偏に、石川県剣道連盟の皆様の永きに亘る温かいご支援ご教導のお蔭と有難く御礼を申し上げます。

称号審査にあたっては山下会長にご推薦をいただき、北野先生、倉先生に申請のお骨折りをいただきました。また、寺内県立武道館々長には、玄関に他団体にも周知せねばと、お祝いの掲示をいただきました。近藤先生には昨年の剣客往来に続いて掲載の労をお取りいただき、重ね重ね御礼を申し上げます。

私の居合道歴は、大学卒業後に高校剣道部同輩の寺西清志君から穴田龍太郎先生の道場（現在の獨行堂）で居合道をしてみないかと誘われたことが始まりであります。

師範は武田清房先生（居合道範士八段）であり、一から手ほどきを受け、早や四十年になります。いまなお、新しい薫陶を頂いております。良き師、良き先輩に巡り会えたことに感謝しております。

全日本居合道大会七段の部二位、全国居合道七段選手権北九州大会優勝、居合道全国選抜八段戦箱根大会二位、全国各地で最優秀賞七回。同じ道場で一緒に稽古をしながら、剣友としてライバルとして存在した河西先生、相川先生にも感謝の気持ちでいっぱいであります。

ただ、範士の称号は、責任の重大さを考えますと決して安堵していられる立場ではありません。一挙手一刀足が範士として見られます。剣の理法の修錬による人間形成を示し、技術力、指導力、判断力、統率力を試される位であります。これからは、さらにレベルの高い手の内。仮想敵を意識しないと生まれない時の間と空の間合。一瞬の集中力と気迫。言葉では授受することができない、自分の稽古の中でしか会得できないところの世界に入っていかなければなりません。武田先生からは「ほんとうの稽古は範士になってから」と言われております。身の引き締まる思いであります。

なによりうれしいことは、県内外から寄せられる、自分の事のように喜んでくださる方々の温かい言葉であります。この感激は何にも代えがたい財産であります。人と人の和が道をなしているものと実感しております。この世界にいて良かったと実感しております。これからは、私が皆さんのお気持ちに応える義務があります。石川県の居合道人口を確保しつつ全国レベルの人材を育てていく。各人がそれぞれに楽しい日常生活を送ることができる居合道ライフへの支援。など難題ばかりですが、みんなで協力し合って石川県の居合道を盛り上げて行こうと考えております。

自分のために支えてくれている家族にも感謝を続けて行かねばなりません。

皆様には今後も一層のご支援ご教導を心からお願い申し上げます。

稿を終えるに当たって、江戸時代の古文書「新以心流後目録」の抜粋をご紹介いたします。

「居合と言う事は、常に人を立てて己を立てず。柔和を第一とし、居合の実意を守り、礼儀を正し、人に後れて身を直くすれば、居合整い、天理に叶い、いよいよ天下和順にして、其の徳自ら備わるなり。心の敵を作らず、己を責めて、己に克ち、過ちを改めることを居合の大事とするなり。」

剣道中央講習会（東日本）を受講して

理事　大田　政信

毎年春に、全日本剣道連盟主催で「剣道中央講習会」が、東日本と西日本に分かれて実施されています。石川県は東日本講習会への参加とな

り、剣道の普及・発展のため、全日本剣道連盟との意志の疎通を図り、剣道指導の方向性に関する連絡及び伝達を目的とした重要な講習会です。

　各県の指導的立場にある先生が受講されており、本県から教員の本橋克也先生とともに私大田が、重責を担っての参加となりました。

　講習会（東日本）は、本年四月二日（土）から三日（日）の二日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターにおいて実施され、開講式冒頭に松永政美先生（全剣連副会長）は、「剣道ほど多くの講習会を実施している競技はないと思う。全国的に統一された指導方針に基づき質の高い剣道を目指す。」とのお話がありました。

　講習会初日は、剣道範士中田琇士先生の「日本剣道形」に関する講義から始まりました。「日本剣道形」は、明治四十四年中学校令施行規則が一部改正されたことに由来し、指導上の統一を図ることを目的に、各流派統合の象徴として制定されたもので、長い歴史を持ち、理合、精神面と深い内容を持つまでに発達した伝統文化と言えます。剣道を修行する者それぞれが、正しくその伝統文化を継承し、後世に伝えることに意義があるとして、形から学ぶ剣の理法と修錬、所作、刀法等細部に至るまでご指導いただきました。

　午後は、剣道範士大嶽将文先生の「剣道審判法」の講義と実技でした。

　元来試合は、試合者にとって修行の集大成の場であり、今後の修行の在り方を稽える場であるが故に、審判の適否は、今後の剣道の在り方に重大な影響を及ぼすものとなります。したがって、審判は適正公平に行い、試合を通して正しい剣道の善導と、人間形成の醸成に努めることが大切として、「審判員の心得」「所作」「公明正大な試合について」「有効打突としての諸条件と一本の質的価値」など実演を交えてご指導いただきました。

　二日目は、剣道範士遠藤勝雄先生の「剣道指導法」についての講義がありました。「剣道の正しい伝承」「人格を尊重し、人間豊かに礼法を重んずる指導」「指導者とともに学び、安全・健康に留意し、生涯剣道を見出す指導」について具体的にご指導いただきました。

○『安全管理』として、竹刀の点検、体調管理や体操などの事前対策、正しい剣道着（具）の着装と指導

○『暴力的な行為及び発言の禁止』として、指導者と懸かり手の関係にある剣道の特徴から特に注意が必要である。

この二点について、特に厳しく、ご指導がありました。

　先般、四月十七日（日）、石川県立武道館において、剣道中央講習会の結果報告を兼ねて剣道講習会を実施したところ、県内指導者約百名（三段から七段）の参加があり、皆さんに真剣に受講していただいたことで、実のある講習会となりました。

　本年度の石川県剣道連盟の基本方針は、「剣道理念に基づき、社会から高く評価される剣道界の発展を目指し、剣道の普及を図る。」であり、剣道愛好者全員が、同じ方向性を持って向上しなければならないと思います。

　講習会に参加できなかった団体には、希望があれば本橋先生とともに補完講習に出向きたいとも思っています。

　今回、剣道中央講習会に参加させていただき、自分自身も剣道を見直すことができたと実感しております。

剣客往来　インタビュー

かみいち総合病院医師
高木　賢治氏

　高木先生は医師としてご多忙の中、時間を見つけて県立武道館で稽古されているお姿をよくお見かけします。剣道が好きであり、努力家でもあると拝察いたしますが、今日は剣道と勉強を両立させた経緯、あるいは現在医師としてご活躍されている中で剣道の位置づけなどをお聞きしながら、勉強との両立に悩む中高校生にアドバイスをお願いしたいと思います。

問：剣道はどのようにして、始められたのですか。

高木：親の仕事の関係で神奈川県川崎市で生まれ、小学二年生の時仲の良い母親グループの子ども達６人ほどで一緒に始めることになりました。無理矢理やらされた感じですが、親はしつけのために礼儀を重んじる剣道をさせたかったようです。

問：最初の頃の剣道の思い出は何かございますか。

高木：小学生低学年の自分にとっては、すり足や素振りなどの基本練習は、あまり楽しいとは思えませんでした。それでも仲のいい友達が行く

ので一緒に通っているという状態でした。

小学五年生になる時、地元の鹿島郡中能登町（旧鹿西町）に引っ越してきましたが、当時剣道も盛んだった町の道場の練習に初めて参加した時に、怖くて泣いたことを今でも覚えています。子どもと一緒に剣道を習い始めた保護者の方のメンが痛くてたまりませんでした。この最初の恐怖体験から剣道があまり好きになれず、ずっと練習に行くのが嫌でした。親には「継続は力なり」と言われてしぶしぶ続けているような状態でした。

問：中高校時代剣道はどのように取り組まれていましたか。エピソードなど交えてお聞かせ下さい。

高木：恩師本橋克也先生率いる鹿西中学校（現中能登中）は、県でも強豪校の一つだったと思います。当然稽古も非常にきつかったです。全能登大会で優勝したにも関わらず、試合内容が悪いからと学校へ帰って猛稽古させられたこともありました。ただ私は十二人いた同級生の中で一番弱かったので、一度も団体の選手になったことはありませんでした。正直練習についていくのがやっとという状態でした。

ところが高校に進学すると変化が訪れます。高校時代は部員が少なく選手が集まらないほどでしたので自動的に選手となりました。試合に出ることでようやく勝負の世界を知るようになり、自分が負けることでチームも負ける時の悔しさを味わいました。勝負における平常心、精神力、プレッシャーなど技だけではなく心の部分の学びが多くありました。少しずつ剣道が好きになっていく時期でした。

問：七尾高校ご出身と伺っていますが、進学校であり勉強が大変だったと思いますが、勉強との両立について何か工夫した点はありますか。

高木：中学校では、剣道では低いレベレだったので、勉強くらいは頑張らなければと思い、意識的に取り組んでいたように思います。それでも高校に進学すれば、周りの人は皆頭が良く、入学当初は約三百人中二百八十番台ほどの成績で、非常にがっかりしていたのを覚えています。普通に勉強を頑張っただけではあまり成績は上がらなかったので、全科目は無理だからどれか一つに集中しようと考えました。特に好きだった世界史だけは人に負けないようにエネルギーを注ぎました。幸いこの作戦は非常に効果がありました。世界史だけ高得点のため、投げやりにならずに済みましたし、むしろ褒められます。やればできるんだという自信もつきます。自ずと他の教科へも良い影響が波及します。諦めず粘り強く取り組む姿勢につながっていたと思います。

問：高校時代は大学進学についてどのように考えておられましたか。

高木：少しでも良い大学に行けたらと考える程度でした。三年間同じだった自分をよく知る担任の先生に小学校の先生に向いているのではないかと言われて、金沢大学の教育学部に進学しました。結局、教師にならずに医者となりましたが、その時の選択はそれで良かったのだと思います。人はいろいろ経験することで初めて興味を持つようになります。まずは関心のあることにチャレンジしてみればいいんです。ちょっとでも興味があり、やってみたいと思うことは、結局、自分の適性に合う可能性も高いと思います。「好きこそ物の上手なれ」ですね。新しいチャレンジをすることで新しい自分を発見し、その試行錯誤の中でこれはと思うことに出会えるのだと思います。

問：金沢大学では、学生生活と剣道はどのようでしたか。

高木：大学生になって初めて自主的に剣道に取り組むようになりました。強くなりたい、剣の道を少しでも究めたいとの明確な意識付けを持って再出発のような感じでした。中学の時からこのような姿勢で取り組めば随分違ったと悔やまれますが、大学時代に一番成長できたと思っています。小さい大会でしたが、生まれて初めて個人優勝もすることができました。何事も自分から積極的に取り組まないと、本当の意味で身に付かないのだと思います。

問：医学部を再受験したいと思うようになった経緯についてお聞かせ下さい。

高木：社会で働いたこともないのに学校の先生になれないと思うようになり、法学部に転部して卒業後は環境問題を仕事にしようと考えました。ただ二十五年ほど前の当時は環境問題に取り組める仕事はほぼ公的な機関しかありませんでしたので、環境事業団という環境省の外郭団体に就職しました。その後、小型風力発電を中心としたベンチャー企業に転職するなど、会社員として七年間働きました。仕事は充実していましたが、はたして今の仕事が自分の本当にやりたいことなのか、いわゆる天職なのかという疑問が頭から離れず次第に悶々とした時期を過ごすようになっていきました。

そんな中、二十七歳の時に突然一型糖尿病を発症してしまい、病院を受診した日に急遽入院となりまし

た。これをきっかけに人の生と死について深く考えるようになり、幼少の頃の夢を思い直して医者を志すことになりました。三十歳を目前にして、最後のチャレンジと思って受験を決心しました。

問：医学部再受験を決意したあとの受験勉強についてお聞かせ下さい。

高木：結婚して妻が妊娠中でもあったので、仕事は辞められず、おもに通勤電車の中で勉強を続けました。計三回目の受験で漸く合格できました。捻出できる勉強時間が限られていたので、必要なことだけするように心掛けていました。学費が安い国立大であればどこでも良く、二次試験の勉強は負担が大きいため、センター試験重視の大学を選んで受験しました。対策は徹底した過去問重視で、センター試験と受ける大学に特化した二次の勉強のみに徹しました。社会で働くと、仕事はいかに早く的確にこなすかが重要となります。受験は趣味の勉強とは違い、合格という目標を達成するための手段だと割り切って取り組みました。合否を左右するのは頭の良し悪しよりも、覚悟の問題だと思います。今の成績はほとんど関係ありません。本気の情熱を持てるかどうかが難しいのだと思います。

問：つらい受験勉強時代のご自身の支えは何だったでしょうか。

高木：働き始めると、好きなことばかりをやっていける訳ではありません。日々の暮らしが嫌になることも多く、自然と人生の意味、働くことの意味を考える機会も多くなります。私は人生において最も時間を割く仕事に妥協したくなかったため、いわゆる自分にとっての「天職」を見つけたいという思いを捨てませんでした。夢や目標を持って努力している日々は、受験勉強であってもそれほど苦にはなりませんでした。むしろ勉強している時間の方が、夢に向かって取り組んでいるのだという自己満足感を感じられて充実していました。現状に対する不満こそが新しいことへのチャレンジに向かわせる原動力だったと思います。

問：受験勉強時代の剣道はどのようでしたか。

高木：最初の職場が霞が関近くだったので、通産省の稽古会に参加して、後に首相になった橋本龍太郎大臣（錬士六段）にも稽古をお願いしたこともあります。また野間道場へも通いました。受験勉強と切り離して、いろいろな稽古会に参加してご指導いただき、剣道に関する書籍もたくさん読み、まだまだ情熱をもって続けていました。

問：琉球大医学部六年間の勉強も大変だったと思いますが、勉強に関する思い出をお聞かせ下さい。

高木：医学部の勉強は大変だと思うかも知れませんが、自分のやろうとしている仕事と直結している勉強なので苦にはなりませんでした。勿論試験は大変でしたが、会社員としての仕事に比べればストレスは遥かに少なかったので、最後まで興味深く楽しんで勉強ができました。

問：琉球大学時代の剣道はどのようだったのですか。

高木：二回目の大学でしたので、おもに社会人の稽古会に参加させていただいていました。沖縄も剣道は盛んで、おかげで随分と知人が増えました。不思議なもので剣道は防具さえあれば、どこでも稽古できますし、そこから様々な交友関係を得ることもできます。剣道をしていれば、どこに行っても気心の知れた仲間ができるのだと実感したのも沖縄にいる頃でした。もはや第二の故郷みたいな感じです。

問：医師としての生活と剣道の関わりについてお聞かせ下さい。

高木：医療の世界も日進月歩です。新しい治療法を勉強し続けないといけません。いくつになっても勉強です。剣道と全く同じです。長年剣道で培ってきた物事に取り組む姿勢が、医師としての仕事に直結し、大変役立っています。私にとって剣道は生き方の核になるものです。幼少の頃は嫌々でしたが、自分から進んで取り組んでみると、その魅力にはまり、現在へ成長するための土台となってきました。まさに剣道は人間形成の道であると実感しています。日々、医師として迷い、悩みながら仕事をしていますが、時々稽古に参加することで、いつも大事なことを思い起こさせていただいています。

問：現在の生活の中で、剣道への思い、将来のご自身の剣道に対する方向性などお聞かせ下さい。

高木：剣道はやる気さえあれば、一人でも続けられます。いくつになっても稽古に参加できます。その中で、多くの先生、先輩、同僚の方々にご指導をいただきながら、道を究めていくことができるのです。これだけで十分すぎる恩恵があるのではないでしょうか。私も現在、日頃の運動不足解消のためも稽古を通して健康管理を行っています。月二回ほどがやっとの状態です。稽古に出る度に振り出しに戻っている体力を実感させられるのが辛いところです。それでも今稽古ができることに感謝しています。皆さんもぜひ真剣に剣道に取り組み、剣の道の醍醐味を実感して下さい。私の拙い経験が少しでも皆さんのお役に立てるなら幸いで

す。

高木先生は剣道と勉強を両立され、立派に医師としてご活躍されている、我々剣道人の誇りであります。今後ともご健康に留意され、ますますのご活躍を祈念いたしております。

剣道授業における生徒の意欲を高める工夫②

宝達志水町立
宝達中学校
教諭　中西　優登

前回に引き続き、生徒の意欲の高まりが期待できる練習を紹介したいと思います。今回は技能の評価も見据えた練習を紹介します。

【すり足ゲーム】

二人組をつくり、じゃんけんで師匠と弟子の立場を決めます。触刃の間合いで構え、師匠が弟子に「前（まえ）」や「後（あと）」と号令をかけます。弟子は号令の通りに、師匠は自分のかけた号令と反対に送り足で動きます。このゲームのねらいは呼吸を合わせることや足さばきを身につけることです。間合いが遠くなったり近くなったりしないよう指導者は触刃の間合いを保つよう声かけをします。動きに慣れてきたら前後の動きに加えて、左右の動きを取り入れたり「前前（まえまえ）」や「右左（みぎひだり）」など連続した号令をかけたりして難易度をあげていくのも良いと思います。また、師匠が号令をかけずに黙ったまま動き、弟子はひたすら間合いを保つように動くというやり方もありますが、他の組との衝突、誤ってお互いに前進して突いてしまうことのないよう安全面への配慮が必要です。

【リズム打ち込み】

音楽のリズムに合わせて打ち込みをするもので「一・二・三・四・五・六・七・八」の八拍で一つの打突をします。竹刀で受ける方法、防具を打たせる方法など授業の進度に合わせて行うことができます。

かかり手は「一・二」で触刃の間合いから、「ヤー」と気合いを入れながら一足一刀の間合いに攻め入ります。そして「三・四」で「メーン（コテやドウでもよい）」と発声しながら打突し「五から八」で通り抜け、振り返って残心をとります。十六拍で一往復（二回打突）するので、一往復でかかり手と元立ちが交代するとわかりやすくスムーズに行うことができると思います。音楽をかけると音楽が流れている間、生徒は打突を繰り返し続けるので、指導者が全体を見て回り指導したり評価したりするのに適しています。

この練習では大きな音で音楽をかけることで、声を出すのが苦手な生徒の気がまぎれ、大きな声が出せるようになることが期待できます。また、CDを再生するのも良いですが、音楽プレーヤーなどのBluetooth機能を使うと再生や停止、音量の調整などを指導者の手元で操作できるので便利です。生徒が好きな音楽で、なおかつテンポが百十～百三十くらいの曲が望ましい早さです。AKB48の「恋するフォーチュンクッキー」は生徒もよく知っており、テンポが百二十程度で十六拍の前奏もあるので扱いやすいおすすめの曲です。

いずれの練習も構えやすり足、打突の評価がしやすい練習ですので、生徒の技能や授業の進度に応じて行うことができます。

※「1,2」で「ヤー」と発声し攻めた場面

剣道七段に合格して

宝志水町　松本　悟

この度、四月の京都審査会において、七段に合格させていただくことができました。

実は、私は六段にはなかなか合格できず、合格まで十回受審し、結局六年かかりました。ですから七段挑戦は二度目でしたが、こんなに早く合格をいただけると思ってもいなかったため、合格者発表直後は、信じられない不思議な心持ちでした。ただ、私は六段挑戦時からずっと意識して取り組んできたことがあります。六段合格には時間がかかりましたが、今思うと、その積み重ねが七段審査にも生かされたように感じています。

私がずっと常に意識しながら稽古に取り組んでいることとは、「正しく力みのない構え」「後退禁止」「受け禁止」という三つの約束事です。癖のある自分の「構え」修正にはかなり苦労しましたが、実は、これが自分の剣道を見つめ直す契機ともなりました。一時は意識しすぎるあまり、稽古で竹刀をまともに振ることすらできないこともありましたが、今はだいぶ安定して力まない「構え」になり、打突がよりスムーズに行えるようになったと感じています。また、「後退禁止」「受け禁止」とは、安易に下がることを戒め、常に先をかけて前に出る気勢で相手に向かい、相手の打突に対しては決して受けて終わることなく、「攻防一致」「懸待一致」の状態で常に対応することを目的とした約束事です。この約束事を実行するために、特に「面すり上げ面」を身に付ける練習をしましたが、これが非常に役立ちました。先の技だけでなく応じ技を身に付けることで、余裕を持って相手に向かうことができるようになったと思います。

最後に、今回の合格は、私を支え励まして下さった多くの先生方や剣友の方々、さらには教え子たち、そして家族のおかげと感謝しております。本当にありがとうございます。これからも一層精進して参りますので、皆様、今後ともよろしくお願いします。

剣道六段審査を振り返って

白山市　木原　伊織

四月二十九日に京都府で開催された「剣道六段審査会」において、三度目の挑戦で合格させていただくことができました。二度の失敗を踏まえ、「今度こそ」という気持ちを胸に、審査会場に向かいました。

立会を一言で振り返ってみると、「相手をつかうことができた」と感じています。六段を受審するにあたって、初太刀を意識して稽古をしてきました。しかし、そこを意識しすぎていたために固くなり、相手の機会を逸した技に対して無理に初太刀を出している自分がいました。今回は、「打つ前の作り（気合、構え、足）」、「打突の機会をしっかり見極める」を意識して挑みました。

一人目、「始め」の宣告後一合目は、残念ながら気が合わず早々に打ってきた打突を捌くことになってしまいました。その後構え合ってすぐに攻め込み、相手が面に起こった瞬間に面を捉えることができました。

二人目は、長身で遠くから勢いよく打ち込んでくる相手でしたので、攻めの過程に加え、間合いの取り方にも注意をしました。結果、初太刀に小手を捉えることができ、二回の立会全体を通して四、五本手応えのある技が出せたと記憶しています。

初めての受審から一年半、とても悩み、途中何度も稽古をするのが嫌になったことがありました。その時に、山本勝好先生に稽古をお願いする機会があり、手取り足取り、細かく的確なご指導を沢山頂きました。改めて、自分の弱さを知り、自分自身の剣道を見直す良い機会になりました。

今回の昇段は、白山市剣道連盟、学校剣道連盟の諸先生方を始め、多くの諸先輩、剣友の皆様、そして私に初めて剣道を教えてくださった亡き見定勝則先生の御指導の賜物と心より感謝しております。この場を借りて御礼申し上げます。これからも、段位に恥じない剣道を目指し、精進してまいりたいと思います。

【全国大会等の記録】(1～6月)

◎第25回北信越高校剣道新人大会

1月16日・17日、庄川体育センター

◇男子 ▽準々決勝
金沢 0－① 富山工業
金沢桜丘 0－① 敦賀

◇女子 ▽準々決勝
星陵 0－② 富山北部
金沢桜丘 0－③ 新潟第一

◎第25回全国高校剣道選抜大会

3月27・28日、春日井市総合体育館

◇男子 ▽予選リーグ
金沢桜丘 1－③ 島原(長崎)
金沢桜丘 1－④ 佐野日大(長崎)
(予選3位)

◇女子 ▽予選リーグ
金沢 ①－0 高千穂(宮崎)
金沢 1－④ 小山(栃木)
(予選2位)

◎第38回全国スポーツ少年団剣道交流大会

3月27・28日、鹿児島アリーナ

◇小学生団体 宇ノ気 予選敗退
◇中学生個人
▽男子 坂野上 拓 予選敗退
▽女子 横山 令 予選敗退

◎第64回都道府県対抗剣道優勝大会

4月29日、エディオンアリーナ大阪

▽一回戦
石川 ④－0 大分
先 中越 ココ－ 小山田
次 後藤 メド－ 黒木
五 桶田 メメ－ 徳部
中 久保 (引分) 姫野
三 篠井 (引分) 三宮
副 斉藤 (引分) 山部
大 山田 コ－ 古手川

▽二回戦
石川 ③－1 青森
先 中越 (引分) 塚尾
次 後藤 (引分) 小笠原
五 桶田 －メメ 倉本
中 久保 メ－ 古屋敷
三 篠井 (引分) 榊
副 斉藤 メ－ 井田
大 山田 メメ－ 鹿内

▽三回戦
石川 2－③ 三重
先 中越 (引分) 中村
次 後藤 －メ 横田
五 桶田 メコ－ 太田
中 久保 (引分) 伊藤
三 篠井 －コ 工門
副 斉藤 －メ 中田
大 山田 コ－ 阿形
石川県はベスト16

◎平成28年度県高校総体剣道競技

6月2～4日、羽咋体育館

◇男子団体 ▽決勝
金沢桜丘 ②－1 金沢市工
◇女子団体 ▽決勝
金沢 ②－1 金沢桜丘
◇男子個人 ▽決勝
中越(桜丘) ド－ 中川(金沢)
◇女子個人 ▽決勝
高木(桜丘) コ－ 横井(金沢)

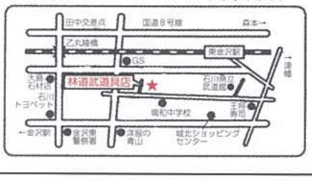
◎第54回北信越高校剣道大会

6月17～19日、加賀市スポーツセンター

◇男子団体 ▽準決勝
金沢桜丘 1－② 新潟明訓
◇女子団体 ▽準決勝
金沢桜丘 ①(代表)1 工大福井
金沢 ②(本数)2 新潟商
▽決 勝
金沢 ②－0 桜丘
◇男子個人
二位 高見 将吾(市工)
三位 中越 泰士郎(桜丘)
◇女子個人
優勝 高木 夏海(桜丘)
三位 谷口 瑛利子(金沢)

中央審査会合格者

◇剣道
▽七段 松本 悟
▽六段 木原 伊織
◇居合道
▽範士 中村 正人

林藤武道具店
〒920-0803 石川県金沢市神宮寺町1番地83
Tel.076-252-2220 Fax.076-252-2240
HP http://www.rindoubudougu.jp/
E-mail:budou@chive.ocn.ne.jp
●定休日／月曜日
[営業品目]
剣道・柔道・空手・なぎなた・武道具全般
(刺繍・ゼッケン・ネームプリントも承ります)


武道具のハシモト
KIRI BRAND
金沢市上荒屋7丁目67
〒921-8065
TEL249-8233
FAX249-9139